

組織内の恩送り資金の仕組みが経営活動に与える可能性
—ボーダレス・ジャパンの事例から—

【 要 旨 】

ソーシャル・イノベーション研究科

ソーシャル・イノベーション専攻

2024年3月修了

堀 和基

“行き過ぎた資本主義”や“豊かさを感じにくい”といった声を現代社会では耳にする。本論文では、そのような社会における経営のあり方として、利他行動の一つである恩送り概念に着目をした。そこで、恩送りを経営活動における仕組みとして活用している株式会社ボーダレス・ジャパンを取り上げ、恩送り概念が経営活動に与える影響を考察した。

考察をするにあたって先行研究に基づき、恩送りは他の利他行動と比較をしてより強力な感謝と負感及び関係性欲求を動機づけることを示した。その上で、経営理論を用い、恩送りが従業員エンゲージメントを通じ、人的資本経営に貢献する概念であることを理論的背景から論述した。

これらを踏まえ、インタビュー調査によりボーダレス・ジャパンの分析をおこない、得られた結果から恩送り概念を経営活動に落とし込むために必要な要素として「送り手が見返りを求めずに恩を送ることができること」「受け手が恩に気づくこと」「受け手と送り手が共通の目的を持っており、それぞれ自分ごと化していること」を示し、その結果から経営活動における具体的方法の提案をおこなった。